「パパは私に似ているって教えたいな」

天国の父に届ける詩、奥田梨智さん　東日本大震災

宮城県登米市の小学２年生、奥田梨智（りさと）さん（８）は、東日本大震災で亡くなった父、智史さん＝当時（２３）＝を思い、「あいたいよ　パパ」という詩を書いた。

９年前の平成２３年３月５日、智史さんと江利香さん（３６）は石巻市で結婚式を挙げた。智史さんの出身地で、職場がある石巻市で新居を構える予定だった。

「一生幸せにする」

友達から４年半の交際期間を経て、智史さんからのプロポーズを受けた江利香さん。幸せの絶頂だった。

婚姻届を提出した３月１１日。震災と津波が石巻市を襲った。智史さんとは２日間連絡がつかなかったが、大丈夫だと思っていた。しかし、智史さんは帰らぬ人となった。信じることができなかった。

江利香さんは当時妊娠６カ月。智史さんの実家も無くなり、登米市の実家に戻った。失意の中だったが、実家の両親と、当時、小学生だった長女（１６）の励ましを受けて、７月１２日に、梨智さんを出産した。

「子供ができたことが分かったときが一番幸せだった。優しくて楽しくて、毎日が本当に楽しかった」と江利香さん。

智史さんと、同じく津波の犠牲になった智史さんの妹、梨吏佳（りりか）さんから、一文字ずつもらって、命名した。梨智さんのくりっとした目と活発な性格は、智史さんにそっくりだという。江利香さんは梨智さんに父親の写真を見せながら、思い出話をするのが日課になっている。

「ご飯を食べているときに飲み物がないと食べられないところとか、運動とゲームが大好きなところとか。パパと梨智は性格もそっくりなんだって」と梨智さんは話す。

小学校１年生の夏休み。担任の先生のすすめで父親への思いを詩につづった。

梨智さんは「パパに知ってもらいたいこと、パパに会いたいことを書いた」という。

その詩は仙台市主催の小学生を対象とした詩のコンクールで「晩翠わかば賞」に輝いた。

梨智さんは毎日、智史さんに一日の出来事を報告している。いま一番知ってもらいたいことがある。

「パパは私に似ているっていうことを知ってる？　教えたいな」

あいたいよ　パパ

パパ　あのね
つなみのときは
ママと
ママのおなかのなかのわたしを
まもってくれてありがとう

パパ　あのね
パパがてんごくにいったあと
七月十二日に
わたしが生まれたよ

パパ　あのね
わたしは　もう
一年生になったから
しんぱいしないでね
お空の上で
ずっと生きていてね

パパ　あのね
ママからきいたよ
パパは
テニス　やきゅう　スキーが
すごく　じょうずだって
とってもかっこいいよ

パパ　あのね
ママとおねえちゃんは
かみをかわいくむすんでくれるよ

パパあのね
ばっぱは
おんせんにつれていってくれるよ
おりょうりもおいしいよ
じっちは
わたしがすきな二チャンネルを
見せてくれるよ
やさしいからね

ぴいちゃんは
いつも　わたしのめんどうを
みてくれるよ
こんどは　わたしが
ぴいちゃんのめんどうをみるよ

パパ　あのね
ママに　ときどき
しかられるときもあるけど
パパのしゃしんのまえにきて
「ママにしかられたあ。」
とはなすと
パパのこえがきこえてきそうだよ

パパ　いま
どこのお空にいるの
おうちの上のくもの上かな

あいたいよ　パパ